

化学・生物総合管理の再教育講座(講義内容)

前期

科目No.	201	科目名	生物総合評価管理学概論1		サブネーム	感染症の過去・現在・未来－微生物との闘い		
連携機関名	国立感染症研究所	レベル	中級		講義枠	火曜日	講義時間	18:30~20:00
科目概要	感染症の発症メカニズムおよび、過去・現在・未来に問題となる感染症をわかりやすく解説する。それとともに、感染症に対して人類がどのように闘っているのか、またその中で専門機関、特に国立感染症研究所(感染研)がはたしている機能についても解説する。							

サブタイトル	No.	講義名	講義概要	講義日	教室	講師名	所属
総論	1	感染症の根絶に向けて	感染症の根絶に向けて人類が歩んできた道を実例を持って示す。さらに今後問題となる新興・再興感染症について概説する。	4月17日	共通講義棟 1号館 203教室	渡邊治雄	国立感染症研究所
	2	感染症への対応－感染研の役割、そしてサーベイランス	ヒトが感染症と闘うためにどのような対策を取ってきたかを探る。伝染病予防法から感染症新法までの100年の歴史を振り返り、その中で感染研の役割を紹介する。	4月24日		岡部信彦	国立感染症研究所 感染症情報センター
	3	院内感染と日和見感染	病気の治療目的で入院した病院で新しく病気にかかってしまう――院内感染について、実際の集団発生事例を呈示して紹介する。	5月8日	共通講義棟 1号館 202または203 教室	加藤はる	国立感染症研究所 細菌第二部
	4	新興感染症の出現と監視	どのような新興感染症が問題となっているのか、それを監視する国際的体制がどうなっているのかについて、世界での新興感染症の現状とWHOが中心に進めている、Global epidemic surveillance と Global Outbreak Alert and Response Networkについて紹介する。	5月15日		谷口清州	国立感染症研究所 感染症情報センター 感染症対策計画室
	5	感染症の予防－ワクチン	感染症の予防に対するワクチン使用――ワクチンはどうして効果があるのか、ワクチンの種類、副作用等を紹介する。	5月22日		多屋馨子	国立感染症研究所 感染症情報センター 第三室
	6	感染症の疫学調査	感染症が発生した場合にどのように調査を行い原因を探るのか、実際の事例を基に紹介する。	5月29日		大山卓昭	国立感染症研究所 感染症情報センター 実地疫学専門家養成コース(FETP)
	7	感染症の発症機構	病原体に感染した場合に、どうして病気になるのか。そのメカニズムをわかりやすく概説する。人体に起こる変化を目で見えて理解する。	6月5日		佐多徹太郎	国立感染症研究所 感染病理部
各論	8	性感染症(AIDSを中心に)	エイズは近年アフリカからアジアに中心を移し、予想を上回り蔓延している。また米国では4人に1人がエイズ以外に性感染症を持つ。原因となるウイルス、バクテリア等の感染は性的接触によるが、感染した針の使用による場合もある。迅速な診断および治療の有効性ととも、予防が常に治療に勝ることを解説する。	6月12日	共通講義棟 1号館 202または203 教室	山本直樹	国立感染症研究所 エイズ研究センター
	9	結核	全世界の約3分の1が感染していて、アウトブレイクを引き起こす結核の現状と薬剤耐性、ワクチンの問題点を紹介する。	6月19日		牧野正彦	国立感染症研究所 ハンセン病研究センター 病原微生物部
	10	大学生の成人麻疹	近年、中高大学生世代に麻疹の患者が増えています。幼児の時にワクチンを接種して獲得した麻疹免疫が数年を経て落ちて来ることから、2006年4月より麻疹風しんの混合ワクチンによる二回接種が始まりました。大学生世代の麻疹の予防と対策を考えましょう。	6月26日		岡田晴恵	国立感染症研究所 ウイルス第三部
	11	ポリオ	ポリオを撲滅するためにどのような対策が採られてきたか、現在の問題点はどこにあるのかを紹介する。	7月3日		清水博之	国立感染症研究所 ウイルス第二部
	12	インフルエンザ	話題となっている高病原性トリ型インフルエンザとは何か、新型インフルエンザの出現はあるのか、といった事例を見ながら、ワクチンの重要性和境界について概説する。	7月10日		小田切孝人	国立感染症研究所 ウイルス第三部
	13	西ナイルウイルス	西ナイルウイルスの我が国への侵入が危惧されている。世界おける現状と今後の予測を紹介する。	7月17日		倉根一郎	国立感染症研究所 ウイルス第一部
	14	クリプトスポリジウム	感染症に係る水道水の安全性はる過と塩素消毒で確保してきた。ところが、近年ではクリプトスポリジウム原虫という塩素耐性(消毒が効かない)の病原体による汚染が世界的に問題となっている。この原虫による疾病と水道汚染に至る背景を説明する	7月24日		遠藤卓郎	国立感染症研究所 寄生動物部
	15	食を介する感染症(O157を中心に)	O157感染症は依然として感染者が多い。我が国に定着してしまっているのか、その現状と今後を語る。	7月31日		渡邊治雄	国立感染症研究所

2007/3/23 教室の決定。2007/4/27教室の変更。2007/5/18講義日6/19と7/17の講義の入れ替え、講義日7/3と7/10の講義の入れ替え。